

日本労働年鑑 第54集 1984年版
The Labour Year Book of Japan 1984

第二部 労働運動

XI 農民運動

概要

一、一九八二年後半から八三年半ばにかけての農民運動の特徴は、貿易摩擦の激化にともなう農畜産物の市場開放要求の内外の圧力のもとで、すぐれて防衛的な「農畜産物輸入自由化・枠拡大阻止行動」が間断なく展開されたことにある。

一、全日農、全農総連などの農民団体は農畜産物自由化阻止行動、農畜産物価格要求行動においてしばしば共闘した。しかし、総体としてみれば、農業団体の要請運動が組織的で支配的であった。

一、食糧制度を守る運動は農畜産物自由化阻止・財界臨調行革反対運動と結合された米価要求運動を中心に展開された。しかし、財政赤字、臨調答申の壁などによる農産物価格抑制策の優越、さらには参院選とのからみ合いのなかで米価は政府・自民党のかけ引きの材料にされる面がいつそう強まり、米審の審議以前に一・七五%アップの事前決定方式により決定された。生産者麦価は二年連続の据え置きであった。

一、農畜産物政策・価格要求運動のメインスローガンはいうまでもなく農産物自由化反対であり、これとの関連のもとに価格要求運動が展開された。農畜産物価格要求運動は農民団体共闘により、葉たばこ価格・蚕糸価格政策・畑作物価格要求運動はそれぞれの関係団体によりおこなわれた。しかし、ほとんどの政策価格は据え置きにされ、引き上げが実現したのは加工原料乳保証価格の〇・七八%アップ、葉たばこ収納価格の〇・九九%のアップにすぎなかった。

一、成田空港反対闘争は三里塚芝山連合反対同盟を中心に一七年余にわたり展開され、現在は二期工事粉碎のスローガンのもとに廃港闘争がつづけられている。最近、反対同盟は成田用水問題、一坪共有化運動を契機に内部対立から分裂の危機にみまわれている。

一、北富士の軍事基地反対闘争は北富士・忍草母の会を中心に展開されており、現在、東富士軍用道路粉碎・日米共同軍事演習粉碎闘争が展開されている。このほか、課税制度変更反対、災害対策要求、企業養鶏進出反対要請運動がおこなわれた。

一、出稼ぎ農民と農村労働者の運動は出稼組合と農村労働組合を中心に展開され、労災認定対策、賃金不払い対策、振動病対策、三省協定賃金要求などが主要な課題であった。

日本労働年鑑 第54集 1984年版

発行 1983年11月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 ●

2001年8月28日公開開始

